



疎外されてきた人々を もう一度社会へ……

生活困窮者支援に携わる OB・OG

貧困は日本にも存在する——。そうした現状に目を向け、生活困窮者への支援を行っているNPO法人「自立支援センター ふるさとの会」では、現在5人の協力隊OB・OGが活躍している。

NPO 法人「自立支援センター ふるさとの会」

路上生活者支援のボランティアグループとして1990年に発足。99年には法人格を取得。「認知症になっても、ガンになっても、障害があっても、家族やお金がなくても、最期まで地域で孤立せずに暮らせるように」をモットーに、台東、墨田、荒川、豊島、新宿の都内各區で生活困窮者の生活支援・就労支援を行う。スタッフは常勤64人、非常勤181人、ケア付き就労(会で雇用する支援対象者)104人。6月に新たに採用された1人を含め、現在5人のOB・OGが活躍中。
<http://www.hurusatonokai.jp/>

20年にわたる生活困窮者支援

東京・台東区と荒川区にまたがる、ドヤ(簡易宿泊所)の密集地域「山谷地区」。高度経済成長期に地方から来た日雇い労働者の宿として激増したドヤだ

が、バブル崩壊後は、職にあぶれて安定した住居を持たない生活困窮者が住人の多くを占めるようになった。NPO法人「自立支援センター ふるさとの会」は、こうした地に拠を構え、生活困窮者の自

東京



「ふるさとの会」は都内4区で11軒の自立支援ホームを運営。写真は旅館を改築した定員16人の単身男性向けホーム(台東区)。11のホームは現在すべて満室で、約40人が空きを待っている

立支援に取り組んでいる団体だ。1990年の発足当初は路上生活者への炊き出しから活動をスタートさせたが、時代の変化に伴い、支援対象者を障害者や、就労が困難な若者へと広げてきた。活動地域も都内5区へと拡大。現在の支援対象者数は、約1200人にのぼる。いずれも、支えてくれる身寄りもなく、世の中から疎外されてきた人たちだ。会では彼らに対して、安定

した住居を得るための支援(自立支援ホームの運営やアパートの賃借保証)、日常生活の支援(訪問ケア)、就労支援などを行っている。

支援対象者の心のバリアを解く

現在、会では5人の協力隊経験者が職員として働いている。先進国で生活困窮者となってしまう人こそ、社会からの疎外感はずっと——途上国経験



(上) 冗談を交えながら親身に生活困窮者の相談に乗る佐藤さん。相談者は「聞いてもらえてよかった」と笑顔で帰って行った
(下) 幹部として会全体のマネジメントに携わる田辺さん

によって強まったこうした問題意識を共有する彼らは、時に意見を戦わせながら、会の屋台骨として活躍している。

「この豊かな日本で生活困窮者と接することは、途上国でそうするよりも一層苦しいかもしれません。また、2年間という期限はなく、終わりの見えない仕事でもある。でも、途上国で、戦い抜いた。経験は、ここで働くうえで力になっています」

こう語るのは、入職して6年目になる佐藤信子さん（スリランカ・美容師・H1年度3次隊）。就職のきっかけは、JICA進路相談カウンセラーの「協力隊の経験が役立つよ」という勧めだった。

「腰を据えてじっくり支援対象者の話に耳を傾け、問題解決を

はかる。これはまさに、協力隊時代に現地の人たちとコミュニケーションをとりながら活動を進めた経験が役立つ仕事でした」

現在は主に生活相談を担当。支援対象者の多くは対人関係に苦手意識が強い。そんななか、日頃から彼らとマメに会話し、抱える悩みをいち早く察知することを心がけている。

佐藤さんと同時期に入職した田辺登さん（サモア・野菜・H14年度2次隊）が会を知ったのは、協力隊の任期中。途上国の貧困を目の当たりにしたこと。をきっかけに、「日本はどうなのだろう」と興味を抱き、インターネットで日本の貧困問題を調べるとようになった。会の門を叩いたのは帰国直後のことだ。会は今これまで、生活困窮者の

特集2 “TEAM・JICAボランティア”がニッポン各地を元気に!

TEAM JICA VOLUNTEER

仲間募集

JICAボランティアでの“協働”経験が生かせます!

「さまざまな事情や心の傷を抱える支援対象者に合わせた“協働作業”が、当会の支援のあり方です。協力隊で異文化を体験し、相手国の人々に合わせた“協働”を行った経験が、必ずや当会で生かされるはず。福祉の経験はなくても大丈夫です。多くの職員が福祉業界の未経験者ですが、当会の保健師によるケア研修など、多様な研修制度を受けて活躍しています。また、各種手当や昇給、産休や育休などの制度も整っているので、進路のひとつとして当会も候補に入れてみてください」(田辺さん)

※「ふるさとの会」の採用に関するお問い合わせは、03-3876-8150まで

「居場所づくり」と「仕事づくり」を軸に活動してきたが、今年度は、支援対象者の互助関係を築く「仲間づくり」を活動目標に加えた。田辺さんは、その陣頭指揮を執っている。

「当会の支援対象者は、世の中から疎外されてきたことから、心のバリア」を持つ人が多い。バリアが解けるのを見守り、支えながら支援対象者同士のつながりをつくり、それをステップに、もう一度社会のなかに居場所を見つけ出せるようになってほしいと願っています」

自立支援ホームのキッチン。おかずは「ふるさとの会」が持つ給食センターから配達されるため、各ホームのキッチンではケア付き就労者がほとんど味噌汁を準備する

